

インタビューテーマ

4 まちを良くするために行政に期待すること・将来こうあって欲しい大船渡市について

③子育て世代及び関係者

- ・一人ひとりの声を柔軟に聞いてくれる行政、地域の特色を生かした施設づくりや地域づくりをお願いしたい。
- ・個人が自由に選択できる大船渡市に。リカレント教育の充実。将来、子どもがUターンして水産業や農業を、学びたいと言うかもしれない。
- ・大人になった後に「大船渡に戻りたい」と思ってもらえる大船渡市に。そのために、水産業だけでなく、さまざまな働き口があると良い。
- ・多様な働き方ができる企業が増えると良い。市外で就職した人や、市外の人にも「住みたい」と思ってもらえる大船渡市に。
- ・「自然がたくさんあるのに、どうしてみんな市外に行ってしまうのか」という話を、学童の子どもから聞くことがある。自然を生かしたレジャーがあると良い。また、経済的に学童に行かせられない家庭への助成などもあると助かる。
- ・子育てしやすい環境は大事だが、医療面が不安。小児科が減ってしまい、子どもが体調を崩したときに連れて行く場所がない。また、小中学校から祖父母との同居を前提とした対応を求められることがあるため、核家族を考慮した制度が欲しい。
- ・子どもがスポ少をしている。物価高や大会参加費の増加など、負担が増えている。また、屋内のスポーツ施設（体育館等）が不足している。
- ・子どもが学校や家庭でもない場所（フリースクールのような）に通える環境ができると良い。
- ・「宮城県県民の森」のように、山ひとつが丸ごとアスレチックになっている施設がある。大船渡にも、そのように体を動かせる場所があると良い。・

④高校生

- ・進学でいなくなつた若者が戻ってくるようになってほしい。そのために、給付型の奨学金（条件付き、所得制限なし）を望む。条件は市内の企業に就職することなど。
- ・災害が風化しないまちになってほしい。震災や林野火災について、産業まつりで写真展示はあったが、そのような機会の充実を。災害の記録を残し風化しないようなまちになってほしい。
- ・人と人とのつながりにフォーカスして、その良さを発信してほしい。
- ・地域連携について強みで先ほど挙げられたが、大船渡高校でも「大船渡学」に取り組んでいて、進学や、地域や社会に対する理解を深めることにつながる機会であると思う。連携して実践的な活動に取り組めたらいいと思う。市としても学生が興味を持てるような宣伝、アピールに力を入れてもらいたい。
- ・「少子高齢化」が出たが、子育て世代への支援の拡充を。子育て世代が住みやすいまちにしてほしい。
- ・学生に対する支援で、中学生まではいろいろ支援制度があるが高校になるとあまりないので充実させてほしい。海外派遣の活動などにお金がかかり、参加機会に差が生じてしまっている。
- ・高齢者が社会の役に立てる機会の確保のほか、空き家の整備（管理）など。高齢者が歩く習慣が少ないとと思う。また、温暖化で水揚げされる魚種が変わっているので、名産（品）を変えるなどの対応も必要と思う。
- ・災害に強いまちづくり、地産地消を盛んに、自転車道がほしい。

- ・内陸から大船渡へのアクセスが悪い。また、観光客などにとってアクセスが分かりにくいので、マップがあるとよいと思う。
- ・イベントが盛んなので観光と地域行事を融合するのもいいのでは。地域のお年寄りにも興味を持つてもらえると思う。
- ・もっと町おこしを。PRを増やしたり交通の便を良くしたり、イベントを増やしてほしい。
- ・小さい子どもや学生に、いろいろな経験をしてほしい。海外派遣や企業見学で、小さい頃のそういういった経験が後の価値観につながると思う。
- ・食物文化科を残してほしい。調理師だけでなく、やりたいことを見つけられる学科だと思う。地域の食材を使いながら学ぶことができる。
- ・食物文化科を残してほしい。料理を学ぶだけでなく、介護職など多くの分野に欠かせない。
- ・食物文化科を残してほしい。中学生のときに知り、食の道に進むのが夢になった。調理師になりたいという人のためにも必要。
- ・食物文化科を残してほしい。生徒会活動を含め、同科がひっぱっていると思う。越喜来漁協と協力して未利用魚の活用研究もしているなど、4学科の中で最も地域貢献できていると思う。
- ・食物文化科を残してほしい。自分は、卒業と同時に調理師免許を取得できるため入学した。調理室は充実していて環境が整っている。科がなくなったら調理師になる夢をあきらめる人が出てくると思う。
- ・食物文化科を残してほしい。管理栄養士を目指している。学んだ知識、経験を活かして、栄養面だけでなく食の楽しさも伝えたい。地域課題型研究では未利用魚を使い子供への食育も実施している。地域に貢献したい。